

第16回 環境気象学コロキウム

下記の通り、第16回環境気象学コロキウムを開催いたします。今回の話題提供者は、本学の地球環境科学研究科の大学院3名です。それぞれ、大学院で行っている研究の最新成果を発表していただきます。学部1年生から大学院生まで、環境科学に興味をお持ちの方は、ぜひご参加下さい。多くの方々のご来場を心よりお待ちしております。

開催日: 2015年11月11日(水) 18:00-19:30

会場: アカデミックキューブ3階306室

高咲良規

2013年8月9日秋田・岩手県の大雨の発生に関する考察

風上側に新しく積乱雲が次々に形成することで起きる豪雨はバックビルディング(BB)型豪雨と呼ばれ、災害をもたらすことが知られている。2013年8月9日に東北地方を中心に2つの線状降水帯が形成し、大雨をもたらした。本研究では、2つのBB型線状降水帯の関係について、数値モデルから擾乱とBBの関係性についてお話しする。

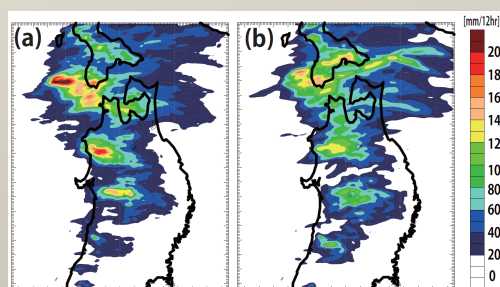


図: 12時間降水量の比較。(a)計算結果、(b)擾乱を無くした計算結果を示す。

木村恵輔

LiDARによる森林の三次元構造および林床の抽出に関する研究

筆者は、これまでに航空機LiDARから森林の3次元構造、微地形の抽出や立木数、位置の推定等を行ってきた。そこで、樹冠内部の情報を上空からの計測のみで推定するとノイズが混入することが確認された。

本発表では、地上LiDAR計測から、単木判別の精度検証を行い、樹冠内部から客観的なデータを取得できることを主に議論を行う。

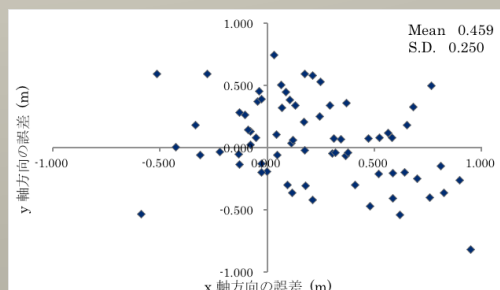


図: 地上型LiDAR計測データを用いた単木判別の精度検証

中村祐輔

埼玉県熊谷市におけるヒートアイランド現象の季節変化とその要因

近年、郊外と比較して都市域が高温となる「ヒートアイランド現象」により、様々な社会問題の発生が報告されている。ヒートアイランド現象は、中規模都市の埼玉県熊谷市においても明瞭に示されており、その時空間パターンを把握することは非常に重要である。そこで本研究では、熊谷市周辺地域を対象として長期的かつ高密度の地上気温観測を実施した。年間を通じた観測の結果、ヒートアイランド現象の時間変化に関して特徴的な季節性が明らかとなった。

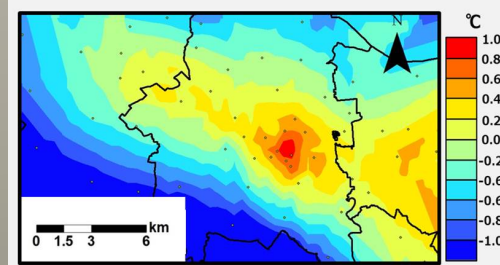


図: 熊谷市周辺地域における日最低気温の空間偏差分布(無降水日のコンポジット)